

上尾市図書館  
館長 島田 栄一 様

上尾市図書館協議会  
委員長 代島 常造



上尾市図書館の今後の在り方について（答申）

上尾市図書館協議会では、令和元年10月7日付で、上尾市図書館長から「上尾市図書館の今後の在り方について（上教図第147号）」の諮問を受けた。

現在、同図書館では、平成28年3月策定の「第2次上尾市図書館サービス計画」と「あげお子ども読書プラン」で掲げた目標を達成するため、図書館サービスの向上に向けた施策を計画的に進めているところである。

しかし、これらの計画は策定から4年目を迎え、この間、新図書館建設計画の推進から見直しとなる大きな計画の転換を経験したことや、社会状況の変化、利用者ニーズの高度化・多様化が更に進行する中、本市の課題等を踏まえ、新たな計画の検討が必要な時期に差し掛かっている。

これらを踏まえ、本協議会では様々な角度から協議を行い、その結果について、下記のとおり答申するものである。

記

1. 上尾市図書館の今後の在り方

上尾市図書館の今後の在り方の検討に際し、上尾市図書館に関するアンケート調査結果報告書（令和元年10月上尾市教育委員会、以下「アンケート調査結果」）や、今年度行われた5回の協議に基づき、「収集」「提供」「学習支援」「環境整備」の4つの柱とする目指すべき姿について、次のとおりとする。

- 「収集」 … (1) 資料や情報の収集等、基本的機能の充実  
ア. 基本的機能の更なる充実  
イ. 地域の歴史や文化、行政等の資料の積極的な収集・提供
- 「提供」 … (2) 多様なニーズに対応するサービスの提供  
ア. 市民の課題解決に資するレファレンスの強化  
イ. サービスの質と効率の向上が期待できるIT設備導入の検討
- 「学習支援」 … (3) 市民の学びと活動の支援  
ア. 様々な人々が集まる図書館の特性を生かした社会教育の充実  
イ. 子供や若者を支援し、地域の学びと活動の循環を創出
- 「環境整備」 … (4) 時代に合わせた環境の整備  
ア. サードプレイスとしての居心地の良い図書館の構築  
イ. 施設老朽化への対応と、新たな価値を創出するための検討

## 2. 目指すべき姿

次に掲げる方向性を踏まえ、新たな計画の策定に向けた検討に着手する。

### (1) 資料や情報の収集等、基本的機能の充実

#### ア. 基本的機能の更なる充実

将来における上尾市図書館の在り方の検討に際して、これまで担ってきた図書館の役割や機能の意義を尊重することは特に重要と考える。また、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年12月19日文部科学省告示第172号、以下「望ましい基準」）で掲げられている基本的機能について、更なる充実を目指すとともに、これまでの取組で成果を挙げている事業は、引き続き推進することが求められる。

#### イ. 地域の歴史や文化、行政等の資料の積極的な収集・提供

「望ましい基準」では、「地域内の郷土資料及び行政資料、新聞の全国紙及び主要な地方紙など多様な資料の整備に努めるものとする」とされているが、現状は体系的な運用が図られていないため、十分な地域資料の収集が出来ているとは言えない。また、市の他の部署で収集・保存している資料もあり、利用者に不便を生じさせている状況である。

関係各課との連携によって管理運営の仕組みを整備し、図書館が地域資料等の提供を積極的に行う窓口となるよう努めていく必要がある。

### (2) 多様なニーズに対応するサービスの提供

#### ア. 市民の課題解決に資するレファレンスの強化

第2次図書館サービス計画でも重要な施策として位置付けられてきたレファレンスサービスを見直し、その取組を強化すべきである。これまでの課題を整理し、利用者に寄り添う利用しやすいサービスが展開できる体制を構築し、子育て・健康・福祉・ビジネス等、市民の課題解決を支援するサービスへと発展させることが望まれる。

なお、これらの実現にあたっては、専門的な人材の育成や、関係各機関の協力を得るとともに、高度なレファレンスに対応できるよう他の公共図書館のみならず、国立国会図書館・大学図書館・専門図書館等の館種を越えた連携強化も重要である。

#### イ. サービスの質と効率の向上が期待できるIT設備導入の検討

市民ニーズの高い自動貸出機や自動返却機の導入については、資料にICタグが装備されていることが前提となるものであり、継続的な検討を要するものである。

一方で、公衆無線LANや電子書籍等、図書館サービスの質と効率の向上が期待できるIT化は、現状においても導入に向けた検討が可能と考えられる。

### (3) 市民の学びと活動の支援

#### ア. 様々な人々が集まる図書館の特性を生かした社会教育の充実

「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（平成

30年12月21日中央教育審議会答申)」において、図書館は学びと活動の循環を生み出す地域住民の交流の拠点としての機能を強化するよう求められている。

様々な人々が集まる情報拠点としての図書館の特性を生かし、公民館や、関係各機関と連携した講座等を図書館で行うことにより、新たな学習のきっかけづくりや、仲間づくり等の面と市民の課題解決の面の双方に対し、支援していくことが求められる。

#### イ. 子供や若者及び地域の学びと活動の循環を創出

「あげお子ども読書プラン」で掲げている、生涯を通じて本に親しむ礎を築くために、学校・家庭・地域が読書活動を支援する仕組みを引き続き推進することを望む。

また、若者の利用を増やすためには、ニーズに合わせたサービスを積極的に展開することが重要である。利用を通じた多様な交流や、新たな学びに繋がるきっかけを提供することで、将来の社会の担い手となる子供や若者を支援し、ひいては地域の学びと活動の循環を創出する場として地域文化の発展に寄与することが望まれる。

### (4) 時代に合わせた環境の整備

#### ア. サードプレイスとしての居心地の良い図書館の構築

アンケート調査結果では、図書館が将来進むべき方向性のイメージとして、「気軽に立ち寄れる」「居心地のよい空間」「身近にある」の順で多くなっている。今後の図書館では、家庭でも職場・学校でもない第3の居場所（サードプレイス）としての役割を担い、子供や若者、子育て世代、主婦、ビジネスパーソン 高齢者等、全ての利用者それぞれのニーズに応じた、親しみやすく居心地の良い空間の構築が求められる。また、現在の施設構造では交流機能が十分発揮できないため、話せる交流室等を伴った構造が望まれる。

#### イ. 施設老朽化への対応と、新たな価値を創出するための検討

図書館施設の9館（室）のうち、5館（室）で築年数30年を超えており、利用者の安全面で課題が生じている。このため、市の他の計画等を踏まえつつ、速やかな対応が求められる。

また、各館（室）は、状況に応じ、図書館が進むべき方向性のイメージの具現化を目指すことが重要である。その一つ的手段として、人通りが多く、アクセスが容易な場所への移設を検討することも必要である。適切な場所への移設は、図書館として新たな利用者を獲得できるばかりでなく、本市の社会教育施設としての観点からも地域の活性化や賑わいの創出に繋がる効果が期待できる。

### 3. 留意すべき点

2で述べた、目指すべき姿を実現するために、次の点に留意しながら進めることが必要である。

#### (1) 現状の図書館サービス網は可能な限り維持

アンケート調査結果では、図書館サービスの今後の方向性として、「現状の施設に対する改修・修繕、または建替えを行い、本館・分館（室）のサービス網を維持する」が50.1%と最も多く、「施設の位置や配置を見直し、本館・分館（室）のサービス網を再構築する」は26.1%となっている。

今後、人口減少・超高齢化社会の進行や、社会保障関連経費の増大や税収入の減少等、財政状況の悪化も予測される中ではあるが、アンケート調査結果の意見を考慮することが望まれる。

#### (2) 定期的な調査による利用者ニーズの把握

「望ましい基準」では、公立図書館は「地域の情報拠点として、利用者及び住民の要請に応え、地域の実情に即した運営に努めるもの」とされ、「住民の要望や社会の要請」を知り、対応していくことが望まれる。

については、定期的な調査を実施することで、刻々と変化する利用者ニーズを常に把握し、全世代においての満足度向上や図書館の管理運営の充実を目指すことが求められる。

#### (3) 専門性と広い視野を持った職員の育成

目指すべき姿の具現化にあたっては、蔵書構築・レファレンス・事業等を行っていく上で、専門的知識を有する図書館司書資格者等が実務経験に基づいて、広い視野を養い、質の高いサービスの提供に寄与していくことが求められる。

については、図書館司書資格者や図書館業務に精通する事務職員の適正な配置と育成が行われることが必要である。

#### (4) 良質なサービスを目指すための運営

上尾市図書館は、より良質な図書館サービスを市民に提供していくために、運営手法についての情報収集に努め、最も効果的かつ効率的な手法を検討していくことに重点を置く必要がある。

また、利用者や地域にしっかりと寄り添い、各館（室）毎に異なる状況を把握し、よりきめ細かな対応をしていくことが求められる。

以上